「仙台塩釜港長期構想委員会 第４回委員会」の概要

＜委員会の趣旨＞

県では学識経験者や経済団体、港湾関係者、港湾所在自治体や国関係機関等を構成員とする「仙台塩釜港長期構想委員会」を立ち上げ、概ね２０～３０年先を見据えた仙台塩釜港のあり方、港湾空間の利用方針等について検討を進めているところです。

３月に開催した第３回委員会を踏まえ、「仙台塩釜港長期構想（最終案）」について議論するため、以下のとおり第４回委員会を開催しました。

＜概要＞

・日　時：令和８年１１月６日（金）午後２時から午後４時まで
・場　所：仙台国際センター　展示棟展示室３
・出席者：学識経験者、経済団体、港湾関係者、国・関係市町（委員３１名＋オブザーバー１名＝合計３２名）　対面・web
・内　容：○ 第３回委員会での主要意見と対応方針
○ パブリックコメントでの主要意見と対応方針
○ 仙台塩釜港長期構想（最終案）について　など

（開催状況）





＜各分野における主な意見＞

【物流】

- コンテナ貨物量が想定を上回るペースで増加していることを踏まえ、港湾機能の強化や沖合展開等について、将来に向けた取組としてだけでなく喫緊の課題として検討を進めていただきたい。
- 早期に効果が期待できる施策だけでなく、中長期的な施策についても着実な推進が必要であり、優先順位に誤解を生じさせない表現とすることが重要。

【防災】

- 事故発生時の被害軽減に資する港湾施設のあり方を検討するとともに、サイバー攻撃やテロ事案等を見据えたバックアップ機能の確保やセキュリティ対策が重要。

【観光・交流】

- 将来の民間開発や交流機能の発展可能性を見据え、柔軟な展開や余白を確保した計画とすることが重要。
- 若者をはじめとする多様な世代への情報発信に加え、賑わいづくり等に主体的に参画できる継続的な仕組みづくりが重要。